

岩手県立大学年報

令和6年度

Iwate Prefectural University
Annual Report 2024



「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す。
(岩手県立大学「建学の理念」)

岩手県立大学の沿革

1951年4月	岩手県立盛岡短期大学開学
1990年4月	岩手県立宮古短期大学開学
1998年4月	岩手県立大学開学。初代学長に西澤潤一氏が就任
2000年4月	大学院を開設[ソフトウェア情報学研究科博士前期課程・同後期課程／総合政策研究科博士前期課程]
2002年4月	大学院を開設[看護学研究科博士前期課程／社会福祉学研究科博士前期課程／総合政策研究科博士後期課程]
2004年4月	大学院を開設[看護学研究科博士後期課程／社会福祉学研究科博士後期課程]
2005年4月	公立大学法人として新たにスタート。谷口誠学長が就任
	第一期中期目標・中期計画期間スタート
	岩手県立大学地域連携研究センター設置
2006年4月	盛岡駅西口にアイーナキャンパスを開設
	共通教育センター設置
2009年4月	中村慶久学長が就任
2011年4月	第二期中期目標・中期計画期間スタート
	いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター(i-MOS)設置
	地域政策研究センター設置
2013年4月	高等教育推進センター設置
2014年4月	共通教育センターを高等教育推進センターへ統合
2015年4月	鈴木厚人学長が就任
2017年4月	第三期中期目標・中期計画期間スタート
2021年4月	教職教育センター設置
2022年4月	教学IRセンター設置
2023年4月	第四期中期目標・中期計画期間スタート／防災復興支援センターを設置

“いわて創造人材の育成と 地域の未来創造に貢献する大学”

- [未来を切り拓く力を高める教育]
- [未来創造に資する地域貢献]
- [教育と地域貢献の根幹となる高い研究力]

岩手県立大学年報-令和6年度- 目次

■ 第四期中期目標・計画及び令和6年度業務実績	03
■ 国連アカデミックインパクト	05
■ 令和6年度地域貢献の活動状況	07
■ 令和6年度研究の活動状況	09
■ 令和6年度教育の活動状況	13
■ 令和7年度入学及び令和6年度卒業・就職の状況	15
令和7年度の入学者選抜の状況	15
令和6年度の卒業者及び就職の状況	17
■ 令和6年度財務状況	19
■ 組織図	21
■ 役員	22

大学運営

令和6年度全国公立大学学生大会、 令和6年度第1回公立大学学長会議・学長研修会を開催



全国の公立大学の学生有志が運営する公立大学学生ネットワークの主催により、令和6年度全国公立大学学生大会を10月に開催しました。全国から集まった学生がワークショップでの体験活動を通して交流を深め、各地域での活動を学び合う機会となりました。また、全国の公立大学の学長等による公立大学学長会議・学長研修会を本学で開催しました。

学生支援

学内合同企業等セミナー「県大ミーツカンパニー」を開催

企業等による採用活動の早期化に対応するため、県内外から151の企業等をお招きし、令和6年11月に学内合同企業等セミナー「県大ミーツカンパニー」を新たに開催しました。学生は将来のキャリアに対する意識を高めるとともに企業や団体等についての理解を深めました。

大学運営

「多様な性のあり方を尊重するためのガイドライン」制定

令和7年1月に性的マイノリティ(LGBTQ+)に関するガイドラインを制定しました。このガイドラインは、多様な性のあり方を尊重し合うため、正しい知識に触れ、理解をすすめ、そして差別を許容しない等適切に行動するための一助とする目的とし、ガイドラインの制定にあわせ、全教職員・学生を対象とした全学セミナーを開催しました。



研究

クアオルト健康ウォーキングに関する 岩手町との共同研究を実施



看護学部の藤澤由香講師のグループが、岩手町とクアオルト®健康ウォーキングに関する共同研究を進めています。この研究は、岩手町におけるクアオルト健康ウォーキングが、住民の健康増進事業として成立する可能性を探ることを目的としています。

教育

介護職応援プロジェクトを実施

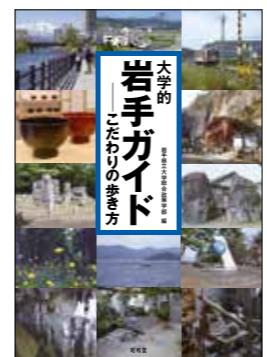
令和6年12月に、社会福祉学部の松永繁講師が介護職の魅力を紹介するシンポジウムを開催しました。介護の魅力発信に取り組む一般社団法人KAiGO PRiDEの小口理事の講演や、現役介護職員3名の対談が行われ、参加した学生は介護職への理解を深めました。



教育

「大学的岩手ガイド」刊行

令和7年3月に、総合政策学部の教員を中心とした専門家が執筆した書籍「大学的岩手ガイド」が刊行されました。地域の魅力を学術的な視点から多角的に紹介する一冊です。ぜひお手に取ってご覧ください。



大学運営

共通研究棟完成

新たな事業共創やイノベーション創出を推進するため、新しく共通研究棟を整備しました。施設内には大型ドライビングシミュレータを設置し、実世界では難しい実験を仮想空間内で実施し知見を得ることで、人の安心・安全に寄与する研究が日々行われています。

第四期中期目標・計画、令和6年度業務実績評価

Iwate Prefectural University

第四期中期目標・計画

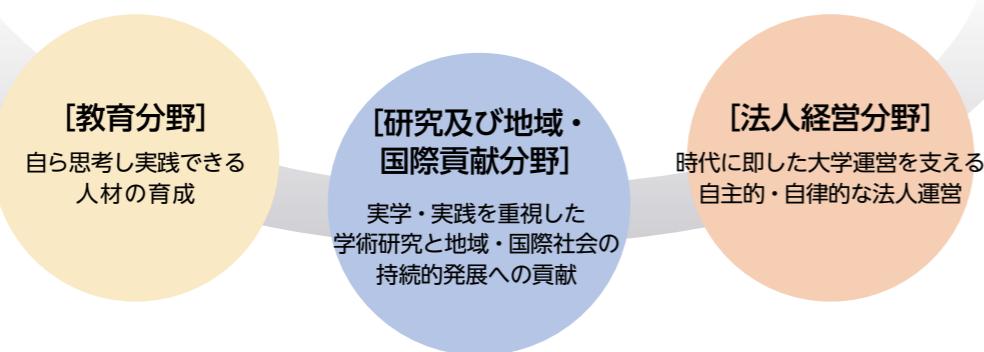
“国内外における社会環境の変化をとらえ、
自律的な高等教育機関として、地域・国際社会の持続的な発展に貢献する大学”へ

岩手県立大学では、令和5年度から令和10年度までの6年間の第四期中期目標期間において、包摂性や多様性を重視しながら経済・社会・環境の課題を統合的に解決し、持続可能な社会の実現を目指すため、第四期中期目標に掲げられている「国内外における社会環境の変化をとらえ、自律的な高等教育機関として、地域・国際社会の持続的な発展に貢献する大学」を目指します。

建学の理念の実現に向けた歩みを進めるため、そして、県民に愛され期待される大学として、自律的かつ積極的に自己改革を進めるとともに、公立大学に期待される役割を意識し、教育研究及び地域・国際貢献において社会的責任を果たす大学となるよう、取り組んでいきます。

第四期中期目標における基本姿勢

国内外における社会環境の変化をとらえ、
自律的な高等教育機関として、地域・国際社会の持続的な発展に貢献する



第四期中期計画における主な取組

[教育分野]

自ら思考し実践できる人材の育成

- ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程の編成と多様で効果的な教育方法の展開
- 教育分野の情報分析結果を活用した学修成果の適切な把握と評価
- 大学院の定員を含めた組織のあり方の検討
- 多様な学生の修学支援、生活支援及び進路支援の充実

[研究及び地域・国際貢献分野]

実学・実践を重視した学術研究と
地域・国際社会の持続的発展への貢献

- 地域の課題解決に向けた取組と多様な学修ニーズに対応した学びの場の提供
- 国際感覚を備えた人材育成と多様な国際交流活動の展開
- 産官学連携によるイノベーションの創出に向けた取組の推進
- 持続可能な地域社会づくり、地域防災力の充実強化や大規模災害からの復旧・復興に貢献

[法人経営分野]

時代に即した大学運営を支える
自主的・自律的な法人運営

- 法人役員のマネジメント体制による法人経営及び教職員が働きやすい環境の整備と多様性を重視したワークライフバランスや男女共同参画の推進
- 教育研究目標を達成するための計画的な人材確保・育成の実施
- 業務改善等及び職員の能力向上の推進による効率的かつ合理的な法人経営並びに内部質保証方針に基づく改革・改善の推進
- 財務内容をより健全化するための適正な予算執行
- 教育研究環境の変化に対応させた施設・設備の整備と維持、施設の長寿命化に資する維持修繕、計画的な大規模改修工事の実施

令和6年度の業務実績

●特に取組が進んだ項目の実績

教育	進路支援	・合同企業等セミナーを新たに実施したほか、自治体や企業等を訪問し、学生の動向等を情報共有するとともに、受入企業側の課題をヒアリングするなど、学生の県内定着に向けた取組を積極的に進めた。 各学部とキャリアセンターが緊密に連携して対応し、昨年度を上回る県内就職率を確保した。
研究及び 地域・ 国際貢献	産学官連携	・本学発のスタートアップ創出及び知財の活用・創出の促進を図るため、「起業支援アドバイザー」を配置し、起業に結び付く研究シーズの掘り起こしや企業等との共同研究のマッチングを行い、MASPのファンド事業である「みちのくGAPファンド」へ5件の応募に繋げ、うち1件が採択されるなど、特筆すべき成果があった。
	重要な地域課題の解決	・防災復興支援センターの取組を更に推進するため、4月に本学初の認定学生団体「FROM」を設立し、20名のメンバーが小中学校等での防災・復興教育への支援、地域の防災訓練等への参加、地域からの依頼対応、各種情報発信など、新たな取組を積極的に進めるなど、特筆すべき成果があった。

●その他主要な取組実績

教育	学修成果	・教学IRセンターシステムによるセミナー等アンケート、全国学生調査、就業力等評価の実施、収集データの学部等への情報提供
	修学支援、生活支援	・全国公立学生大会 (LINKtopos2024 in IWATE) の開催、運営 ・「岩手県立大学における多様な性のあり方を尊重するためのガイドライン」の策定、全教職員・学生を対象とした全学セミナーを開催
	進路支援	・学生からのキャリア相談受付のシステム化を実施 ・内定報告書等のシステム化に関する検討
研究及び 地域・ 国際貢献	地域・国際社会への貢献	・自治体向け講座として「地域DX推進セミナー」、「グループチャット等の使い方と活用方法」、「データ利活用スキル形成研修」等を県内4会場で開催 ・民間向け講座として「高度技術者養成講習会」など2講座を開催
	産学官連携	・企業学群講演会の開催を通じた関係者間における企業学群構想理念等の共有 ・各学部長等と滝沢市IPUイノベーションセンター・パーク入居・立地企業との交流・連携強化を目的とした名刺交換会等の実施 ・インターンシップ型連携授業の実施
法人経営	事務等の効率化・合理的な執行	・授業料口座振替依頼ウェブ受付サービスの導入
	情報公開・情報発信の充実	・改訂版広報マニュアル及び決定した学部カラーを掲載したデザインマニュアルを作成 ・公式ウェブサイトのリニューアルに向けた検討、仕様書の作成 ・大学公式SNSを整理し、情報発信のあり方について定めた広報マニュアルを整備
	法令遵守、人権意識の向上	・ハラスメントに係る学外の第三者相談窓口を設置

概要

本学は、2019年5月、国連アカデミック・インパクト(以下「UNAI」という。)に加盟しました。UNAIは、各大学が社会貢献を進めながら、国連と世界各国の高等教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムです。

本学は、UNAIに関連する様々な教育研究、地域貢献活動を行っていることから、UNAIの10原則のうちの4原則に参加しています。

原則6：人々の国際市民としての意識を高める

原則8：貧困問題に取り組む

原則9：持続可能性を推進する

原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

【参考】国連アカデミック・インパクトJapanのウェブサイト

これらの4つの原則は、本学の建学の理念と合致しています。



活動報告書

◆活動報告書とは

UNAIの加盟大学は、UNAIの10原則のうち、各年度に少なくとも1つの原則に係る活動を実施し、UNAI事務局に報告することとされています。



◆岩手県立大学の活動報告書

本学でもこれまでのUNAIに関連する活動について、活動報告書を取りまとめており、本学の公式ウェブサイトに掲載しています。

岩手県立大学のホームページトップ画面から、「国際交流」のページを参照。

1 健康課題の視点でSDGs解決策を考える

岩手県立大学看護学部 准教授 アンガホッファ司寿子 教授 細川舞

履修学生は、持続可能な開発目標ファクトシート(国連広報センター、2015)を参考に、グループごとにSDGs17の目標から関心を持った1つを選び、健康課題と関連した課題に着目し、国レベル、地域レベル、そして看護学を学ぶ大学生としての個人レベルで、解決策を考え発表している。発表後に質疑応答の意見交換により、さらに学びや考察を深めている。

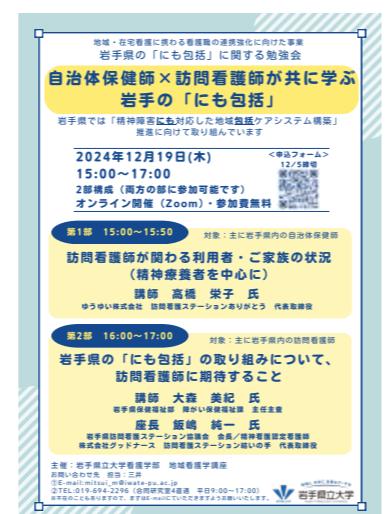
この活動を通して、学生が国際的な視野で、医療保健や看護上の課題を考える機会を持ち、さらには看護学の領域を超えて、学際的・政策的な視点で活躍する看護職を目指す意識が養われている。



ディスカッションの様子

2 岩手県内の自治体保健師と訪問看護師の連携を強化する取組 ～岩手県の「にも包括」を共に学ぶ勉強会の開催～

岩手県立大学看護学部 地域看護学講座



勉強会の案内チラシ

3 地域と子どもをつなぐ学生の学び

—キッズボランティア「どろんこ隊☆」の実践報告—

岩手県立大学社会福祉学部 准教授 井上孝之

キッズボランティアサークル「どろんこ隊☆」は、2024年に新たに2つの活動を立ち上げた。1つは、学習支援と居場所づくりを目的とする「どろんこ隊☆ミライ」による「タキ木の広場」、もう1つは、子ども食堂の企画・運営および支援を行う「どろんこ隊☆もぐもぐ食堂」である。

いずれも、地域の子どもたちの学びや生活を支えることを目的としたボランティア活動であり、学生が自らの問題意識に基づいて企画・実施を行っている。顧問は伴走的に支援しているが、活動の中心は学生にあり、主体的かつ自律的に展開されている。



利用者同士の学び合いの様子

4 地域の清掃活動の可視化を目的としたシステムの試作

岩手県立大学ソフトウェア情報学部 講師 富澤浩樹

岩手県環境生活部地域循環推進課

(株)Badass 代表取締役 田中裕也

本研究チームでは、ソフトウェア情報学部学生とともに、海岸・河川漂着物の実態調査のためのプラットフォームとなるシステムと、県民参加を促すためのデータ提供用アプリケーションの開発を段階的に行ってきた。具体的には、地域住民による組織的な清掃活動によって比較的の環境が保たれていることに着目し、どの程度の量のゴミが拾われているかを把握することを目的としたプラットフォームシステムと多様なデータ提供用アプリケーションを試作することで、岩手県内に展開可能なシステムのあり方を模索している。

2024年度は、これまでの研究に基づいて、地域の清掃活動の効果を可視化するためのプラットフォームと、清掃活動の経路情報共有を目的としたアプリケーションの試作を行った。



試作したデータ提供用アプリケーションの画面例

これらは12月に東京ビックサイトで開催された「エコプロ2024」において展示された。

5 残反の利活用による縫製企業とのデザインプロジェクトとその教育的効果

岩手県立大学盛岡短期大学部 准教授 佐藤恭子

(一社)北いわてアパレル産業振興会

(株)二戸ファッショングループ

岩手県北広域振興局二戸地域振興センター

本プロジェクトは、盛岡短期大学部生活科学科生活デザイン専攻の学生2名が主体となり、「卒業研究」の一環として実施された。残反を活用した衣服デザインの提案・製作・評価を通じて、その活用可能性を検証することを目的とした。デザインの提案だけにとどまらず、実際の生産工程に関与することで、持続可能なファッショングループや長く着用できる衣服デザインとは何か、さらに現代に求められる衣服の在り方について考察することも、本プロジェクトの重要な狙いの一つである。



工場視察・残反の確認

6 副専攻・国際教養教育プログラムで開講している海外研修

岩手県立大学高等教育推進センター

国際教育研究部 教授 高橋英也、講師 江村健介

岩手県立大学には、学部・学科の専門(主専攻)に加えて、それぞれの専門が活かされる「世界」「地域」「国際」という視点から理解し、そこで生じる多様な課題に取り組む力を体系的かつ実践的に学ぶことができるプログラムとして、「地域創造教育プログラム」「国際教養教育プログラム」という2つの副専攻の課程がある。それぞれの課程の修了要件を満たすことで、「地域創造士」「国際教養士」の称号を得られる。国際教養教育プログラムは、グローバル化が進む世界を前に、異文化理解・多文化共生を基盤とした文化・社会を多面的理解に立脚し、自らと異なる文化的背景をもつ人々と協働し、課題解決できる語学力を身につけ、主体的に行動できる実践力の育成を目指している。



2023年度の参加学生オハイオ大学キャンパスにて

新たな価値を創造し、地域の未来に貢献する大学を目指して

■ 北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトの推進

「未来創造に資する地域貢献」の取組を進めている本学では、平成31年4月に岩手県と「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」を締結し、いわて県民計画(2019～2028)に掲げる「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」を共同で推進することとした。そこで本学では、研究・地域連携本部に「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト推進センター」(センター長：研究・地域連携本部長兼務)を設置し、北いわての地域課題の解決や産業振興につながる調査・研究、

人材育成などに取り組んでいます。

令和6年度は、学内研究費(令和2年度創設)により北いわてをフィールドとした研究活動を展開するとともに、東京大学を代表機関とする「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT、令和3年度から参画)」の取組として、地域課題の解決や地域を担う人材育成を目的に、地域の将来を考える「未来ワークショップ」や地域課題の解決を図る「リビングラボ」、総合学習や探究授業等における地域協創のまちづくり学習などを実施しました。

■ 地域政策研究センターによる研究の推進及び市町村への支援

「実学・実践重視の教育・研究」を基本的方向の一つとする本学では、県民のシンクタンク機能のさらなる充実強化を図るために、平成23年に地域政策研究センターを設置しました。センターでは、県民が抱える課題・ニーズに「地域目線」で向き合い、多様な専門分野の研究者が、自治体やNPO、企業との協働により、地域課題を解決するための研究や市町村の地方創生の取組支援を行っています。

● 地域協働研究の推進

本学では、県内の自治体、地域団体、企業等からの提案を受け、地域課題の解決に向けた共同研究に取り組んでおり、課題解決プランの策定を支援する「ステージI」(研究期間：単年度)と、研究成果を課題解決に応用するための活動を支援する「ステージII」(研究期間：2か年度)を設け、それぞれの課題・ニーズに対応した研究活動を展開しています。令和6年度は、ステージIで35課題、ステージIIで7課題の研究に取り組みました。

● 研究成果の発信

地域協働研究をはじめとする研究成果の地域への還元を目的として、令和6年9月に「研究・地域連携本部 研究成果発表会」を開催しました。研究発表(11件)や共同研究等に関する懇談会、パネル展示などを実施し、自治体職員等49人が参加しました。



学生団体「FROM」メンバー

■ 防災復興支援センターの取組

本学では、東日本大震災津波の教訓を踏まえた「次の大災害への備え」を進めるため、令和5年4月に「防災復興支援センター」を設置し、地域の防災力向上に資する支援活動や調査研究活動、人材育成活動等に取り組んでいます。

令和6年度は、学内研究費の制度を創設し、防災・復興をテーマとする調査研究を実施したほか、市町村の地区防災計画等の策定支援、避難訓練の実施支援、小中高生を対象とする防災教育を通じた人材育成、東日本大震災津波伝承館の企画展示を通じた情報発信などに取り組みました。

また、センターの取組を更に推進するため、学生団体「FROM」を設立しました。令和6年度は20名のメンバーが登録し、地域からの依頼による防災訓練等への参加や各種イベントへの対応、防災教育への対応などを行いました。

■ 公開講座等各種講座の開催

県民の皆様への学びの場の提供と研究成果の還元を図るため、毎年夏に滝沢キャンパスで開催している公開講座は、全7講座を開催し、延べ563人が受講しました。また、8年ぶりに宮古キャンパスでの公開講座(全3講座)を開催し、延べ73人が受講しました。その他、地区講座を滝沢市で開催し、全3講座に25人が参加しました。各学部等では、それぞれの専門性を生かした多様な講座等を開催し、全71講座に延べ1,789人の参加がありました。

地域のDX推進とスキル向上を目的として令和5年度から開催している「データサイエンス・リカレント講座」は、全9講座を開催し、延べ676人が受講しました。

また、若手技術者・学生を対象に、高付加価値・高効率型ものづくりに不可欠な先端的技術をテーマとした高度技術者養成講習会を6講座開催し、延べ70人の参加がありました。



公開講座(宮古キャンパス講座)

■ Rubyプログラミング教室の開催

児童生徒のICT活用スキルの向上と課題解決能力の育成に資するため、滝沢市立滝沢第二中学校の科学技術部員を対象に、Rubyプログラミング教室を実施しました。同部は、プログラミング教室の成果を「中高生国際Rubyプログラミングコンテ

スト2024 in Mitaka」のゲーム部門に応募して、1作品が一次審査を通過し、11月に行われた最終審査会において、審査員特別賞を獲得しました。

◆企業学群構想の推進

滝沢市IPUイノベーションセンター・パーク企業を学部・研究科と同等の「企業学群」と捉え、情報の共有や相互の信頼・協調関係を促す集積拠点を実現し、産学官連携による事業共創や人材育成を目指す「企業学群構想」の実現に向け、学部教員、滝沢市IPUイノベーションセンター・パーク企業及び滝沢市による連絡会議を毎月開催したほか、会議の下に3つのワーキンググループを設置し、主要事業である「インターンシップ型連携授業」や「大学祭イベント」等の企画調整を行いました。また、産学連携事業として、オープンイノベーションをテーマとした「企業学群講演会」や、各学部長と企業による「名刺交換会」、大学祭における「滝沢市IPUイノベーションシンポジウム」などを実施しました。



企業学群講演会

究等及び奨学寄附金の獲得件数は合計50件(同1件増)、受入金額は149,836千円(同38,869千円減)でした。

◆看護実践研究センターの取組

県民のQOLと岩手の看護の質の向上に寄与することを目的に、地域貢献事業と研修事業を実施しました。

令和3年度から取り組んでいる4つの地域貢献事業では、ウォーキング促進活動、健康ダンス「イ・ン・ダ」県大バージョンの普及活動、ラーニングサポートプロジェクト、母子保健活動に活かせる資材を活用した両親学級の開催など、滝沢市と協働して住民の健康推進や学習支援に取り組み、参加したみなさんより好評をいただきました。

また、「岩手県新人看護職員研修」に26施設から68人、看護学部教員の専門性を生かした「専門職研修事業」は43講座を開講し延べ791人の参加がありました。県内病院に出向いて講師を務める「研究指導」も12施設で実施しました。



いきいきサロンでのイ・ン・ダ普及活動



大学でのウォーキングイベント

◆全学競争研究費による研究の推進

将来的に大型・学際連携型外部資金の獲得を目指す研究を支援するため、平成29年度に創設。令和6年度は4件を採択しました。

◆外部研究資金の獲得状況

令和7年度科学研究費への新規応募は95件で、そのうち採択は18件でした。継続課題を含めた採択率は30.1%(前年度36.8%)となりました。また、令和6年度の共同研究、受託研

地域協働研究

地域協働研究は、地域の諸団体と本学教員が協働で、地域が抱える課題の解決に取り組む研究です。地域政策研究センターの取組として、平成24年度に創設されました。これまで取り組んできた研究課題は、300課題を超えます。

平成29年度からは、研究成果ができるだけ早く地域社会に届けるしくみとして、下記のとおり研究費の制度を見直しました。

【ステージI】課題解決プラン策定ステージ

地域課題を解決する方策を策定するための調査研究の段階。

研究費：1課題当たり上限30万円（研究期間：単年度）

【ステージII】研究成果実装ステージ

地域課題を解決するために実施した本学の調査研究の成果を実際に地域に活用する活動の段階。

研究費：1課題当たり上限100万円／年（研究期間：2か年度）

《ステージI：課題解決プラン策定ステージ》

詳細はこちらから



岩手県立大学
ホームページ内
地域協働研究
関連ページ

※研究代表者 五十音順

看護学部

	研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1	介護予防の意識向上を目指した個別プログラムの構築	馬林 幸枝	有限会社ホームセンター仙台	R6年4月～R7年3月
2	岩手町におけるクアオルト健康ウォーキングの健康増進事業化の可能性の検討	藤澤 由香	岩手町	R6年4月～R7年3月

社会福祉学部

	研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1	コミュニティベースでアセスメント力向上を図る事例検討会モデルの開発に関する研究	泉 啓	岩手県精神保健福祉士会	R6年4月～R7年3月
2	児童養護施設入所児童のユーザビリティに着目した「岩手県版子どもの権利ノート(仮称)」開発に関する研究	實方 由佳	岩手県	R6年4月～R7年3月
3	「住居荒廃」問題への包括的支援体制の強化 —自治体間の連携に着目して—	高木 善史	矢巾町	R6年4月～R7年3月
4	IT外国人材が活躍する環境整備に関する研究	細越 久美子	株式会社ヒロキャリアスタッフ	R6年4月～R7年3月

ソフトウェア情報学部

	研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1	ガイドシステムの周遊ログによる来訪者調査手法の活用に関する研究	阿部 昭博	平泉町	R6年4月～R7年3月
2	中小もののづくり企業等のデジタル化推進に向けた伴走型高度IT人材の育成・活用に関する調査研究	阿部 昭博	岩手県	R6年4月～R7年3月
3	生成AIを用いて展示施設職員に負担をかけずに効果的な展示案内を実現する視聴覚ガイドシステムの開発	蔡 大維	盛岡市遺跡の学び館	R6年4月～R7年3月
4	生成AIの活用による岩手県立水産科学館の魅力向上アプローチの開発	蔡 大維	岩手県立水産科学館	R6年4月～R7年3月
5	数学基礎力と自律的学習の定着を図るアプリケーションの開発と探究学習による数学への興味喚起に関する研究	田村 篤史	岩手女子高等学校	R6年4月～R7年3月
6	こころの相談窓口への地域版ゲートを対象とした生成AIの利用可能性及びログデータ分析結果の展開方法に関する研究	富澤 浩樹	盛岡市保健所	R6年4月～R7年3月
7	県政150周年を契機とした岩手の特色に親しむコンテンツの開発	プリマ・オキ・ディッキ・アルディアンシャー	岩手県	R6年4月～R7年3月

総合政策学部

	研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1	盛岡駅前道路におけるウォーカブル空間創出の課題と効果に関わる基礎的研究	宇佐美 誠史	盛岡馬車みち会議	R6年4月～R7年3月
2	岩手県の文化芸術・体験イベントにおける次世代育成を見据えた実験的な場づくりに関する調査研究	倉原 宗孝	岩手県	R6年4月～R7年3月
3	技術者U・I・Jターン促進事業の構築	近藤 信一	盛岡市	R6年4月～R7年3月
4	大卒人材と八幡平市企業求人マッチングによる企業成長の可能性と人口減少対策	近藤 信一	八幡平市	R6年4月～R7年3月

5	事業者支援及び地域経済の活性化における決済機能付き地域アプリの可能性	近藤 信一	盛岡市	R6年4月～R7年3月
6	県内中小企業の実効的なDX支援のための支援に要する前提知識の共通化及び支援方法の標準化手法（プロトタイプ）の開発	近藤 信一	岩手県	R6年4月～R7年3月
7	総合計画の進行管理の在り方	杉谷 和哉	盛岡市	R6年4月～R7年3月
8	木賊川遊水地一帯における希少蝶および野生哺乳類の生息実態の解明	鈴木 正貴	たきざわ環境パートナー会議	R6年4月～R7年3月
9	廃校を活用した体験観光拠点施設設置による経済波及効果および施設の情報発信に関する研究	ティー・キャンヘーン	大船渡市	R6年4月～R7年3月
10	岩手町観光協会及び岩手広域交流センターの観光拠点としての多面的利活用に関するフィージビリティースタディー	新田 義修	岩手町	R6年4月～R7年3月
11	廃校後の木造校舎の利活用を契機とした持続的地域づくりのための基礎的研究—縮小社会を見据えた地域組織再編の検討	平井 勇介	一戸町	R6年4月～R7年3月
12	盛岡市における次期まち・ひと・しごと創生総合戦略改定に向けた若年層の社会動態に関する実態調査	堀筆 義裕	盛岡市	R6年4月～R7年3月
13	県外からの移住者数の分析・把握方法の改善(モデル事例構築を通じた回収率向上を目指して)	堀筆 義裕	岩手県	R6年4月～R7年3月
14	関係人口に着目した人口減少対策の推進について～県南地域との関わりの深化を目指して～	堀筆 義裕	岩手県	R6年4月～R7年3月
15	水福連携の普及及び認知度向上に向けた研究	山本 健	岩手県	R6年4月～R7年3月

高等教育推進センター

	研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1	岩手町の地方創生を担う「地域共創人材」の評価方法の開発	渡部 芳栄	岩手町	R6年4月～R7年3月

盛岡短期大学部

	研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1	岩手らしい高断熱で地域に根差した住宅(岩手型住宅)の普及に向けた情報発信と住教育の展開可能性に関する研究	青笹 健	岩手県	R6年4月～R7年3月
2	わらび粉製造と食の歴史の調査とわらび粉の認知度向上への取組み	長坂 慶子	やまに農産株式会社	R6年4月～R7年3月
3	安比川流域に眠る「漆と蔵」調査と活用について	三須田 善暢	日本遺産奥南部漆物語推進協議会	R6年4月～R7年3月

宮古短期大学部

	研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1	観光地からの情報発信と観光客のニーズへの適応に関する調査	大志田 憲	一般社団法人宮古観光文化交流協会	R6年4月～R7年3月
2	沿岸圏域への移住定住促進に向けた課題の明確化と効果的な情報発信について	大志田 憲	岩手県	R6年4月～R7年3月
3	自治体政策からみた「住みやすさ」と「幸福感」の関係性の分析～市民アンケート結果を活用した施策への反映可能性の検討	和川 央	金ヶ崎町	R6年4月～R7年3月

《ステージII：研究成果実装ステージ》

※学部別、研究代表者 五十音順

	研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1	保育給付業務DXと標準業務モデルの検討	井上 孝之 (社会福祉学部)	北上市	R6年4月～R8年3月
2	奥州市多言語医療支援ポータルサイト構築とその効果評価に関する研究	細越 久美子 (社会福祉学部)	奥州市、奥州市国際交流協会	R5年4月～R7年3月
3	国際競争力の高いスノーリゾート形成に向けて新型ICカードリフト券システムの開発と実装	蔡 大維 (ソフトウェア情報学部)	網張温泉スキー場	R6年4月～R8年3月
4	DXを活用した県民参加型の自然環境保全活動(海岸漂着物対策をはじめとした環境美化活動等)可視化のためのシステム実装	富澤 浩樹 (ソフトウェア情報学部)	岩手県	R5年4月～R7年3月
5	自治会を中心とした地域活動のデジタル化	堀川 三好 (ソフトウェア情報学部)	山田町	R5年4月～R7年3月
6	「既存公営住宅」と「地域・コミュニティ・経済」が創発する岩手県からの自立内発型地域形成の実践研究	倉原 宗孝 (総合政策学部)	岩手県、盛岡市、もりおか復興支援センター	R5年4月～R7年3月
7	久慈地下水族科学館(通称「もぐらんぴあ」)の魅力化促進及び誘客策の実装—来館者の特性に応じた能動的なアプローチ—	三好 純矢 (総合政策学部)	有限会社あくあぶらんつ	R6年4月～R8年3月

科学研究費助成事業

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」です。ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行います。

本学では、応募申請に対する支援体制を整えるなど、採択率向上に向けた取組を行っています。

看護学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	挙児を希望する有配偶女性に対するリプロダクティブライフプランニング支援の構築	アンガホッファ 司寿子
2 基盤研究(C)(基金)	アクションリサーチから構築する持続可能な小児訪問看護システムとその検証	相墨 生恵
3 基盤研究(C)(基金)	マルチモビディティと生きる前期高齢者のセルフケアを支援するための援助指針の開発	内海 香子
4 基盤研究(C)(基金)	ニューノーマル時代に地域医療を担う看護職の生涯学習支援オンラインプログラム開発	遠藤 良仁
5 基盤研究(C)(基金)	抗癌剤漏出に関する調査とステロイド局所注射の作用を中心としたケアの実証的研究	及川 正広
6 基盤研究(C)(基金)	訪問看護ステーションと自治体との連携を強化するための研修プログラムの開発	工藤 朋子
7 基盤研究(C)(基金)	患者にとって安全で苦痛のないフラッシング技術の実態調査および実証実験による検証	小向 敦子
8 基盤研究(C)(基金)	地域の中小規模病院で働く臨床看護師の研究支援プログラムの開発	鈴木 美代子
9 基盤研究(C)(基金)	筋注用ワクチン製剤による注射部位副反応を軽減・予防する看護技術の確立	高橋 有里
10 基盤研究(C)(基金)	油性徐放性製剤の筋肉内注射により発生する硬結を予防するための看護ケア方法の確立	高橋 有里
11 基盤研究(C)(基金)	助産師と協働した児童養護施設のリプロダクティブルースケア実施体制の構築と検証	福島 裕子
12 基盤研究(C)(基金)	筋肉内注射の確かな刺入深度に基づく看護技術の確立	藤澤 望
13 基盤研究(C)(基金)	糖尿病性腎症初期患者に対する患者教育プログラムの開発と実践適用	藤澤 由香
14 基盤研究(C)(基金)	終末期がん患者の倦怠感軽減ケアプログラムの開発と臨床応用	細川 舞
15 基盤研究(C)(基金)	効果的に安価かつ理屈の安全性を確保するシミュレーション教育用デバイスの開発	三浦 奈都子
16 基盤研究(C)(基金)	セキュアル・ヘルスケアを実践する看護職のアンラーニング促進教育プログラムの開発	谷地 和加子
17 基盤研究(C)(基金)	内分泌療法を受ける乳がん女性へのセキュアル・ヘルスケアモデルの開発と評価	谷地 和加子
18 若手研究(基金)	効果的な多職種連携につながるデイサービス看護師の看護ケアコンピテンシーの確立	小嶋 美沙子

社会福祉学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	災害派遣福祉チームのリーダー活動の標準化に向けたリーダー養成研修プログラムの開発	伊藤 隆博
2 基盤研究(C)(基金)	精神障害者の地域生活支援におけるクライシス・プランの実践と研修プログラムの開発	狩野 俊介
3 基盤研究(C)(基金)	精神医療における非自発的入院の防止に向けたクライシス・プランの効果に関する研究	狩野 俊介
4 基盤研究(C)(基金)	アイトラッキング装置を用いた感情の影響による購買意思決定の情報探索の検討	菊地 学
5 基盤研究(C)(基金)	非正規雇用スクールソーシャルワーカーはどう学ぶか—専門性形成と実践コミュニティ	櫻 幸恵
6 基盤研究(C)(基金)	自閉スペクトラム症児の就学前教育・保育施設における園生活リスクとリスク評価分類	佐藤 匡仁
7 基盤研究(C)(基金)	参加型評価アプローチによる小地域を基盤とした「地域福祉形成力」評価モデルの開発	佐藤 哲郎
8 基盤研究(C)(基金)	包括的支援体制構築における行政・専門職・地域協働による参加型評価モデルの開発	佐藤 哲郎
9 基盤研究(C)(基金)	アウトカム評価による児童養護施設訪問アドボカシーシステムの一般化に向けた研究	實方 由佳
10 基盤研究(C)(基金)	縮小社会におけるコミュニティ再編についての研究—地域運営組織形成を事例に	庄司 知恵子
11 基盤研究(C)(基金)	対象の非人間化による共感抑制過程に関する研究	田村 達
12 基盤研究(C)(基金)	フィンランドにおける親族介護支援制度の実態の把握:介護者決定過程に焦点をあてて	濱岡 優
13 基盤研究(C)(基金)	ブレグジット後のイギリスの医療・福祉サービスの再編	日野原 由未
14 基盤研究(C)(基金)	マルトリートメント防止のためのクライシス・プランを応用した支援プログラム開発	三上 邦彦
15 基盤研究(C)(基金)	演劇教育によるインクルーシブネス: ろう者と聴者からなる劇団のワークショップの検討	若林 陽子
16 若手研究(基金)	災害派遣福祉チームによる被災地でのソーシャルワーカー活動モデルの開発に関する研究	伊藤 隆博
17 若手研究(基金)	子ども支援・教育者に対するトラウマインフォームドアプローチに基づく心理教育の構築	瀧井 美緒
18 若手研究(基金)	介護福祉職の休憩時間の雑談を通じた実践知の学習・獲得に関する研究	松永 繁
19 若手研究(基金)	音楽学習者のための「聴く力」の育成:エドガー・ワilemsの音楽教育実践に着目して	若林 一惠
20 研究活動スタート支援(基金)	重大犯罪少年の処分選択に関する質的比較分析	秋本 光陽

ソフトウェア情報学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 國際共同研究強化(A)(基金)	問題変形作問における難易度の解明と問題変形作問学習支援システムの開発	福井 昌則
2 基盤研究(C)(基金)	野外ミュージアムの特質を踏まえたデータ活用フレームワークの研究	阿部 昭博
3 基盤研究(C)(基金)	エージェントベース社会シミュレーションを活用した論理的推論の教授法の提案	市川 尚
4 基盤研究(C)(基金)	ゼロ・少音声言語資源の音声処理技術の構築	伊藤 慶明
5 基盤研究(C)(基金)	人口非密集地における発災初期の安全・安心に向けた通信ネットワーク構築手法の開発	今井 信太郎
6 基盤研究(C)(基金)	組込みソフトウェアの高品質化開発手法による超スマート社会の実現	猪股 俊光
7 基盤研究(C)(基金)	激甚化する風水害の特性と財務変動を考慮した短期的リスクファイナンス評価手法の研究	大堀 勝正
8 基盤研究(C)(基金)	IoTデバイスと連携するリアクティブスケジューリング	岡本 東
9 基盤研究(C)(基金)	警告ダイアログデザインを活用したセキュリティ意識の向上および持続可能性の探求	小倉 加奈代

詳細はこちらから



科学研究費助成事業データベース
「研究機関」に「岩手県立大学」
と入力して検索。

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
10 基盤研究(C)(基金)	近未来型VRライブ配信環境におけるコミュニケーション支援システムの開発	齊藤 義仰
11 基盤研究(C)(基金)	脳の視覚特性を組み込んだ深層学習モデルによる大きさ知覚特性の検証	眞田 尚久
12 基盤研究(C)(基金)	単語分散表現の頻度エンコード問題の解消	鈴木 郁美
13 基盤研究(C)(基金)	A novel study on visible ingredient identification in food images for food computing	戴 融
14 基盤研究(C)(基金)	教育から始める人間中心のセキュリティ対策手法	高田 豊雄
15 基盤研究(C)(基金)	AI技術による進路指導変革を目指した情報系学部の進路選択支援システムの開発	田村 篤史
16 基盤研究(C)(基金)	サイバー攻撃をカタチで捉える情報システムの開発—激増する攻撃パケットへの対処法—	成田 匡輝
17 基盤研究(C)(基金)	生活環境のリアルで育む乳幼児の事故予防とその習慣化支援システム	西崎 実穂
18 基盤研究(C)(基金)	適応型映像ミキサーにより多元中継の個人視聴を高機能化する新世代仮想スタジオ	橋本 浩二
19 基盤研究(C)(基金)	郷土芸能伝承のためのセンサフュージョンによる「わざ」の要素の「教え方」の可視化	松田 浩一
20 基盤研究(C)(基金)	運転エピソード記憶・極限環境でのドライバーの振る舞いとエピソード記憶のマッピング	間所 洋和
21 基盤研究(C)(基金)	認知症予備群を対象とした逆走トリガーとなり得る運転シチュエーションの同定	山邊 茂之
22 若手研究(基金)	問題変形作問における質的・量的評価方法の構築と学習支援システムの開発	福井 昌則

※研究種目別、研究代表者 五十音順

総合政策学部

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(B)(基金)	多様化する地域社会の存続にコミュニティ・キャピタルが与える影響に関する研究	吉野 英岐
2 基盤研究(C)(基金)	府県林業公社とその分収造林地の展望に関する実証分析	泉 桂子
3 基盤研究(C)(基金)	模擬投票を活用した主権者教育プログラムの開発とその普及に関する実践的研究	市島 宗典
4 基盤研究(C)(基金)	防災と福祉を結ぶ(逃げる視点からの)参加のまちづくりの実践活動とモデル・理論構築	倉原 宗孝
5 基盤研究(C)(基金)	イスラーム圏ポスト・コンフリクトの統治の正統性に関する比較法的・法社会学的研究	桑原 尚子
6 基盤研究(C)(基金)	心理的効果と不完備選好に着目した選択行動の分析およびその応用	小井田 伸雄
7 基盤研究(C)(基金)	農村生物多様性保全に資するため池の水生動物調査労力低減に向けた新技術の開発	鈴木 正貴
8 基盤研究(C)(基金)	震災被災地の「日常の再構築」過程における意識調査:地域社会の分断・格差に着目して	堀篠 義裕
9 基盤研究(C)(基金)	東日本大震災津波被災地における水産加工業の協業化による水産業クラスターの新展開	新田 義修
10 若手研究(基金)	社会関係資本の保有格差の実態・メカニズム・変動性の体系的解明:時空間的アプローチ	鈴木 伸生
11 若手研究(基金)	韓国の非正規労働者の雇用安定と待遇改善のための法制度の立法効果に関する考察	徐 侖希
12 若手研究(基金)	現在バイアス選好が公的年金政策に与える影響:経済成長・経済厚生の観点から	中坊 勇太

※研究種目別、研究代表者 五十音順

盛岡短期大学部

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	民俗学で語る戦争:従軍看護婦たちの戦中・戦後と職業婦人としての仕事と日常の民俗誌	原 英子
2 若手研究(基金)	屋外使用木材の耐用年数評価のための温度・水分暴露量と腐朽の関係式の構築	大澤 朋子
3 若手研究(基金)	20世紀初頭フランス女性の近代的女性観形成における東洋趣味モードの影響	佐藤 恵子
4 研究成果公開促進費(補助金)	近・現代日本語諱謙表現の研究	伊藤 博美

※研究種目別、研究代表者 五十音順

宮古短期大学部

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	効果的な情報発信のための観光地画像に対する感性と色彩、視線の相関分析	大志田 寛
2 若手研究(基金)	製品機能のオーバーシュートに関する経験的研究	鈴木 将人

※研究種目別、研究代表者 五十音順

高等教育推進センター

研究種目	研究課題	本学における研究代表者

<tbl_r cells="3" ix="2" maxcspan="1" maxr

■ 三陸ジオパーク推進協議会と宮古短期大学部との連携による総合三陸学の展開

—地域を深く学び、未来へつなぐ教育を—

宮古短期大学部では、令和7年度より、「岩手三陸学（1年次）」と「総合三陸学（2年次）」からなる地域創造科目を新たに開講することとしました。

2年間を通じて、三陸の自然・地質・歴史・文化・産業・防災といった多様なテーマを横断的に学ぶことで、地域の特性や課題を深く理解し、持続可能な地域づくりに貢献できる人材の育成をめざします。その中核を担う「総合三陸学」の展開にあたって、令和7年1月、本学は三陸ジオパーク推進協議会と連携協力に関する協定を締結しました。同協議会は、三陸地域全域をエリアに含む「三陸ジオパーク」を推進する団体であり、三陸沿岸すべての市町村および関係団体によって構成されています。

「悠久の大地と海と共に生きる」をテーマにする三陸ジオパークは、地震や津波といった自然災害と人々の暮らし・復興・文化のつながりを見つめ直し、地球規模の自然変動の中で形成された地域の成り立ちと、人々の営みの再生に向けた取り組みを次世代に伝えることを目指しています。

「総合三陸学」は、この三陸ジオパークの理念を教育に取り入れた、「宮短オンライン」の教養科目です。

協定締結により、ジオパークの広範なネットワークを活かした講師派遣、現地実習支援、授業設計への助言などを受

けながら、地域全体と協働して学びを持続的に育していく体制が整いました。授業では、三陸に精通した多彩な講師による講義に加え、各地の震災遺構の訪問、防災まちづくりの実践、地域文化の担い手との対話などを通じて、学生が自ら問い合わせ立て、学びを深め、地域とともに考える姿勢を育んでいます。

—地域が教室となり、人と大地のつながりが教材となる—

「総合三陸学」は、学びの地・三陸というフィールドに根ざした本学だからこそ実現できる、三陸地域とともに学ぶ実践的な教養教育です。

また、東日本大震災からの復興に加え、人口減少、自然との共生、地域文化の継承など、三陸地域が抱える多様な課題に向き合い、持続可能な未来を地域とともに描いていくこの学びは、被災地の経験と教訓を次世代へつなぐ教育のかたちであり、宮古短期大学部が社会に提供できる確かな価値のひとつです。

今後も本学は、地域との連携を軸に、教育・研究活動をさらに深化させ、学生の成長と地域社会の発展に貢献していきます。



地域とともに育てる学びへ。三陸ジオパーク推進協議会 山本正徳会長と鈴木学長が協定を交わしました。（令和7年1月7日、宮古短期大学部）



陸前高田市の東日本大震災津波伝承館でのフィールドワークでは自然災害から命を守り、乗り越えていく姿勢を学びました。（令和7年6月6日）

■ 「文理融合データサイエンスプログラム」(応用基礎レベル)で初の修了認定

本学では、数理・データサイエンス・AIは、今後のデジタル社会の基礎知識であり、すべての学部生が身につけておくべき素養と捉え、知識を体系的に学ぶ「文理融合データサイエンス教育プログラム」を令和4年度から設置しています。本プログラムには、すべての学生が身につけるべき基礎的な「リテラシーレベル」と、その上に発展的に学ぶ「応用基礎レベル」があり、それぞれ文部科学省の認定（MDASH）を受けています。

令和6年度には、「応用基礎レベル」において初の修了生1名が誕生し、令和7年5月20日に行われた修了証授与式では、本学の副専攻である「地域創造教育プログラム」及び「国際教養教育プログラム」の修了生とともに、学長より修了証が手渡されました。（令和6年度副専攻修了生 20名）



第1期「文理融合DS教育プログラム（応用基礎レベル）」修了生

■ 滝沢市国際交流協会と連携した国際交流の取組について

令和6年度本学では初めて、（公財）中島記念国際交流財団助成事業を活用し、外国人留学生と地域との交流を目的に7月は日帰りのホームビギット、12月は1泊2日のホームステイを行いました。

滝沢市国際交流協会の御協力により、合計7家庭に11名の外国人留学生を受け入れていただきました。外国人留学生は、料理と一緒に作ったり、着物を着たり、観光に連れて行ってもらうなどホストファミリーと充実した時間を過ごすことができました。

また、ホームビギット及びホームステイ終了後は、受入れ家庭と参加した外国人留学生を主な対象とした報告会を開催しました。外国人留学生からは、「ホストファミリーが計画してくださいださったアクティビティーが楽しかった」、「ホストファミリー

の皆さんとの温かいおもてなしのおかげで、とても充実した時間を作ることができた」、「日本の家庭での日常生活や文化に触れる機会を得られたことは、とても貴重で忘れられない経験です」などの感想が寄せられました。

この他、大学祭では、滝沢市国際交流協会と共に、フィリピンに派遣されているJICA青年海外協力隊員をゲストスピーカーにお招きし、現地からオンラインにより青年海外協力隊の活動内容やフィリピンについて紹介していただきました。

本学では、引き続き滝沢市国際交流協会や他団体等と連携した事業を通じながら、外国人留学生と地域住民との相互理解や交流を推進するとともに、地域の国際化に取り組んでいきます。



着物体験



ホストファミリーと外国人留学生との報告会

令和7年度入学及び令和6年度卒業・就職の状況

Iwate Prefectural University

令和7年度の入学者選抜の状況

岩手県立大学では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な選抜区分により学生の募集を行っています。

令和7年度入学者選抜においては、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人選抜などを実施し、新入学の志願者数は1,717人で3年ぶりに増加（対前年度90人増加）、大学院の定員充足率は54.3%（25年連続定員

割れ）、盛岡短期大学部の定員充足率は102.0%で定員を確保、宮古短期大学部の志願者数は162人で4年ぶりに増加、定員充足率は90%で前年度より増加でしたが、3年連続の定員割れとなっています。

本学では、高大連携事業や入試広報活動を通じて、入学者志願者の確保の取組を展開しています。

令和7年度入学者選抜結果

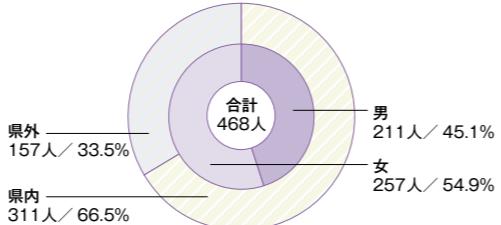
(単位:人、倍)

学 部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学部	90	356	206	95	2.2
社会福祉学部	90	303	253	102	2.5
ソフトウェア情報学部	160	690	459	185	2.5
総合政策学部	100	368	251	113	2.2
計	440	1,717	1,169	495	2.4
学 部(編入学)	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学部	10	6	6	5	1.2
社会福祉学部	10	18	18	10	1.8
社会福祉学科	5	11	11	5	2.2
人間福祉学科	5	7	7	5	1.4
ソフトウェア情報学部	10	15	15	13	1.2
総合政策学部	10	28	26	11	2.4
計	40	67	65	39	1.7
大学院	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学研究科看護専攻	13	3	3	3	1.0
社会福祉学研究科社会福祉専攻	18	14	12	7	1.7
ソフトウェア情報学研究科ソフトウェア情報専攻	50	41	41	40	1.0
総合政策研究科総合政策専攻	13	4	4	3	1.3
計	94	62	60	53	1.1
盛岡短期大学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
生活科学科	50	75	72	64	1.1
生活デザイン専攻	25	34	33	30	1.1
食物栄養学専攻	25	41	39	34	1.1
国際文化学科	50	87	84	74	1.1
計	100	162	156	138	1.1
宮古短期大学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
経営情報学科	100	162	156	149	1.0

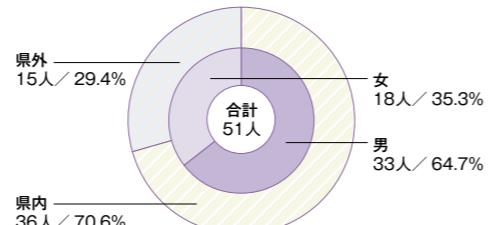
(注) 実質倍率=受験者数÷合格者数

令和7年度入学者の内訳

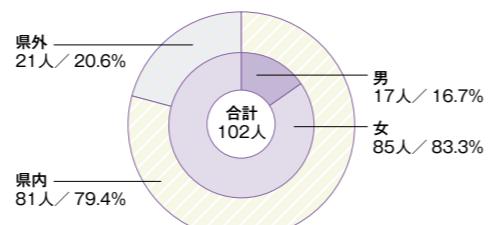
【学部】



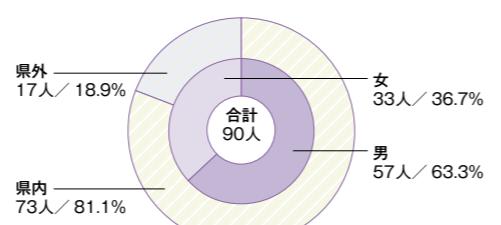
【大学院】



【盛岡短期大学部】



【宮古短期大学部】



■ 高大連携の取組

本学では、高等学校と大学間の相互理解を促進し、意欲のある高校生が大学での学修に触れる機会を設けるため、様々な高大連携の取組を実施しています。

対面での入試説明会や相談会に加え、オンラインでの入試相談にも対応しているほか、大学見学では、大学の説明と施設の見学を実施しています。

また、本学での学修内容に触れる機会として、授業見学、高校への出張講義、サマーセミナー等を開催しています。

大学見学や相談会の際には、学生で構成する学生広報団体 (Campus Attendant キャンパス・アテンダント) が自身の体験談の発表やキャンパスガイドを実施し、実際の学生の声が聴けるということで好評を得ています。



キャンパス・アテンダントによるキャンパスガイド

高大連携事業	内 容
高校訪問	入試の情報提供や本学への意見を聴取。
出張講義・オンライン模擬講義	高校等での模擬講義、探究学習への支援を実施。高校等の希望に応じてオンラインで実施。
大学見学	高校生等の見学の受入。
授業見学	高校生の講義見学を受入。
高校教員大学説明会	高校教員へ各学部の特徴や入試の概要説明。
入試相談会	沿岸・県北地区等の高校会場、大学祭（滝沢キャンパス）等で高校生・保護者向け入試相談会を開催。また、オンラインでの入試相談にも対応。
キャンパス・アテンダント (CA) 活動	説明会等での体験談発表やキャンパスガイド等を実施。高校生の質問・相談の場CAカフェを実施。
サマーセミナー	夏休みや休日の期間を活用し、「研究室体験」「授業体験」の機会を提供。
いわて高校生学び応援プロジェクト	県内の高校生向けに探究活動・課題研究コンクールと小論文コンクールを実施。
オープンキャンパス	入試説明会及びキャンパス・アテンダント (CA) 企画 (キャンパスマスター、イベント等) を実施。

インターネット出願の導入

令和4年度入学者一般選抜から、インターネット出願を導入しました。志願者にとっては出願書類作成の効率化が図られることに加えて、入学検定料の支払い方法をクレジットカードやネットバンキングにも拡張するとともに、

志願に必要な項目の記入漏れを防ぐ効果があります。また、志願者登録情報のデジタル化により志願者受付業務の効率化が図られることから、令和5年度入学者選抜からはインターネット出願対象を大学院まで拡大しました。

令和6年度の卒業者及び就職の状況

令和6年度の卒業者は、4大学部453人、大学院修了者37人、盛岡短期大学部101人、宮古短期大学部88人、計679人でした。

卒業者の進路について、4大学部は、就職内定者397人（うち県内168人、県外229人）、大学院等進学35人、その他9人でした。盛岡短期大学部は、就職内定者64人（うち県内42人、県外

22人）、進学者27人、その他10人、宮古短期大学部は、就職内定者61人（うち県内33人、県外28人）、進学者18人、その他6人でした。

就職内定率は、4大学部97.5%、盛岡短期大学部100%、宮古短期大学部96.8%でした。

令和6年度の卒業者の状況

学部	看護学部	社会福祉学部	ソフトウェア情報学部	総合政策学部	合計
卒業者	96	100	150	107	453
就職希望者	91	90	122	104	407
就職内定者（うち県内）	91 (51)	87 (35)	119 (22)	100 (60)	397(168)
就職内定率	100%	96.7%	97.5%	96.2%	97.5%
進学者	2	7	26	0	35
その他	3	1	2	3	9

大学院修了者	看護学研究科		社会福祉学研究科		ソフトウェア情報学研究科		総合政策研究科		合計
	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	
	4	2	6	0	22	2	1	0	37

短大	盛岡短期大学部		宮古短期大学部	
	卒業者	101	就職希望者	63
卒業者	101		就職希望者	63
就職希望者	64		就職内定者（うち県内）	61 (33)
就職内定率	100%		就職内定率	96.8%
進学者	27		進学者	18
その他	10		その他	6

(注)「就職内定率」は就職希望者に対する就職内定者の割合であり、令和7年3月31日現在の内容を以て決定
(注)その他は、療養に専念、家事従事、進学・留学準備、一般的な就職の概念になじまない就業（準備）の者、社会人学生等

就業力育成の取組

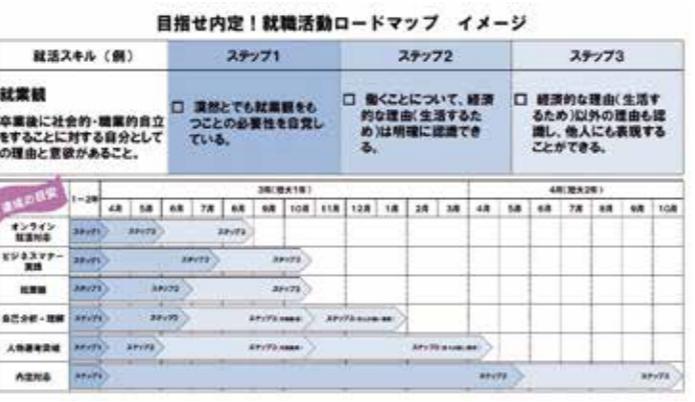
本学では、学生の就業力の育成と進路実現に向けた支援として、次のような取り組みを行っています。

・就職ガイダンスを通し、学部の特性や企業の採用活動の動向、インターンシップ等の就業体験の現状、就職活動の早期化等、学生が就職活動を行う上で必要な情報を提供しています。令和6年度は36回のガイダンスを実施しました。

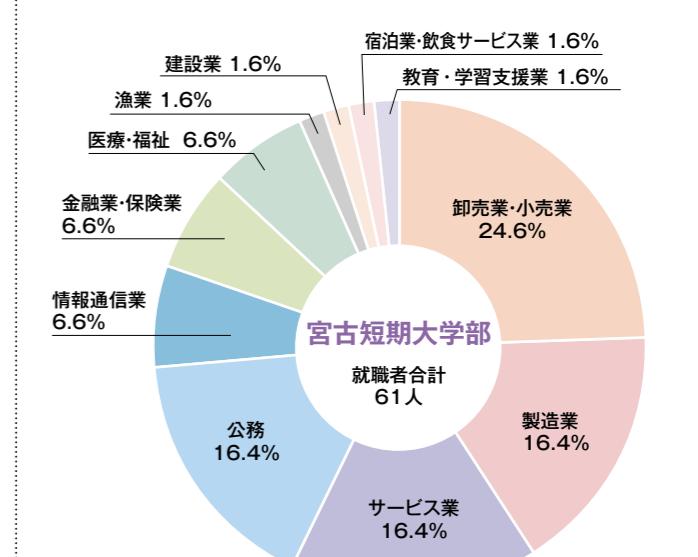
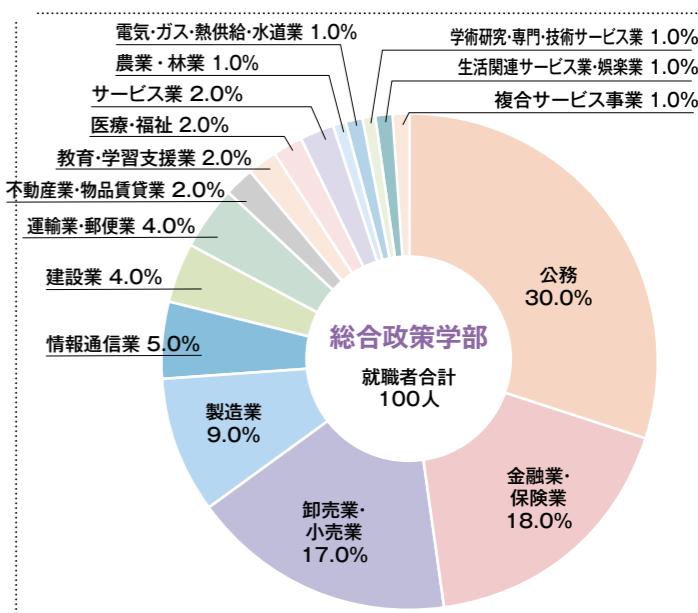
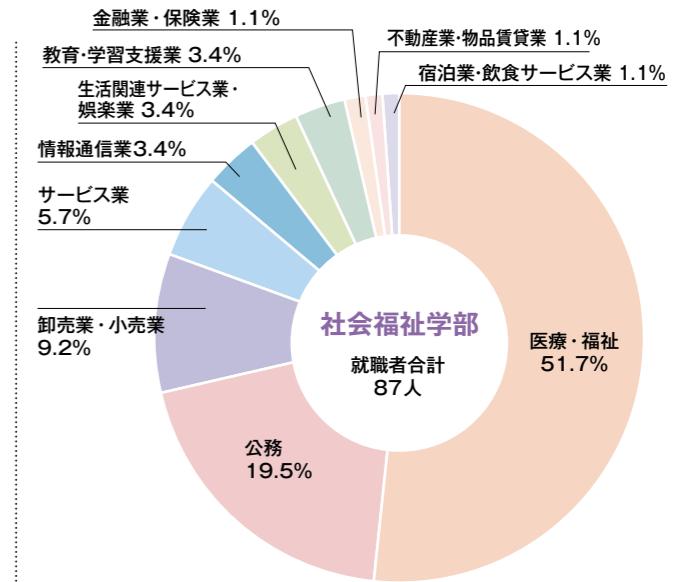
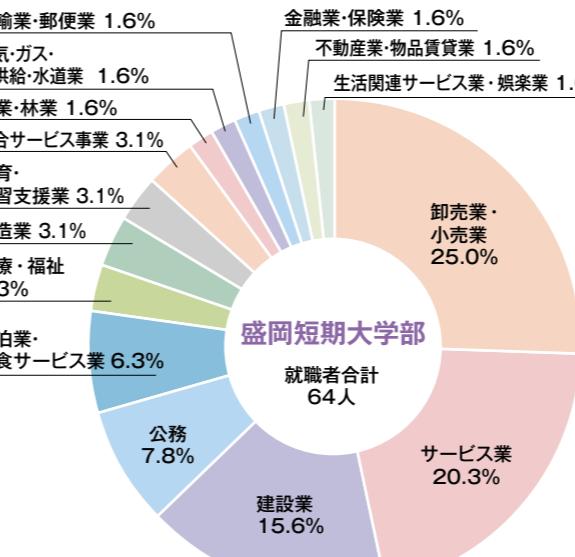
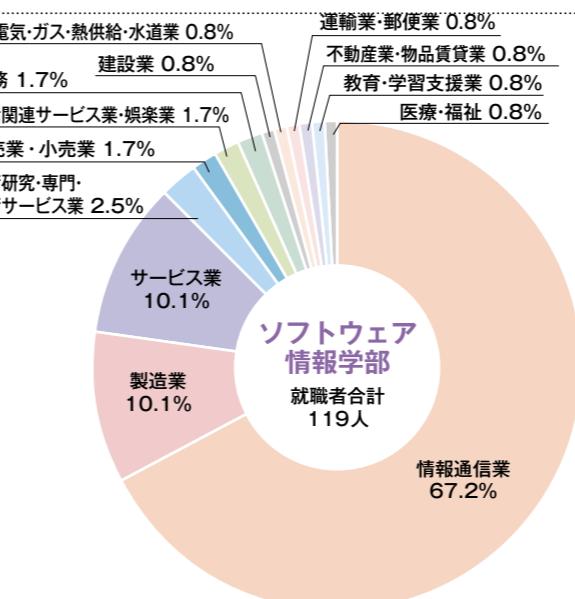
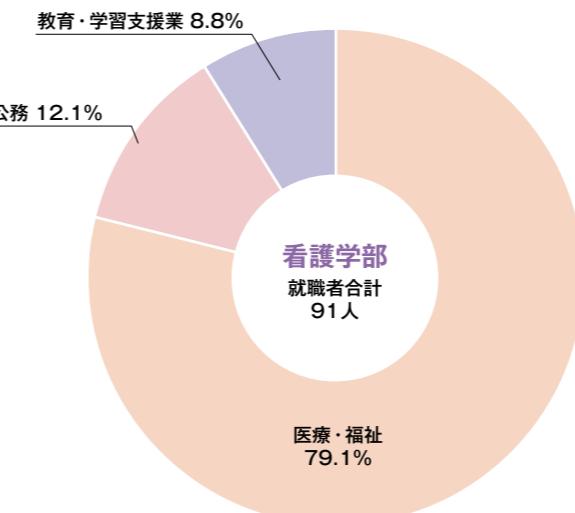
・インターンシップ等の就業体験の意義や参加の心構え、ビジネスマナー等、学生がインターンシップに関する理解を深めるためのガイダンスや事前学習を行っています。岩手県内の事業所での就業体験を仲介する「インターンシップin岩手」について、令和6年度は夏季・春季合わせて107名の学生が参加しました。

・公務員志望の学生に対し、公務員に関する基礎知識の習得や試験対策、公務員として働く卒業生との座談会の開催など、学生の具体的な目標に対応した支援を行っています。

・本学独自の「就職活動ロードマップ」を用いて、学生が就職活動を行う上で必要なスキルの達成度を測定し、学生の自己評価が低い項目については支援の改善を行っています。



令和6年度卒業生の主な就職内定先

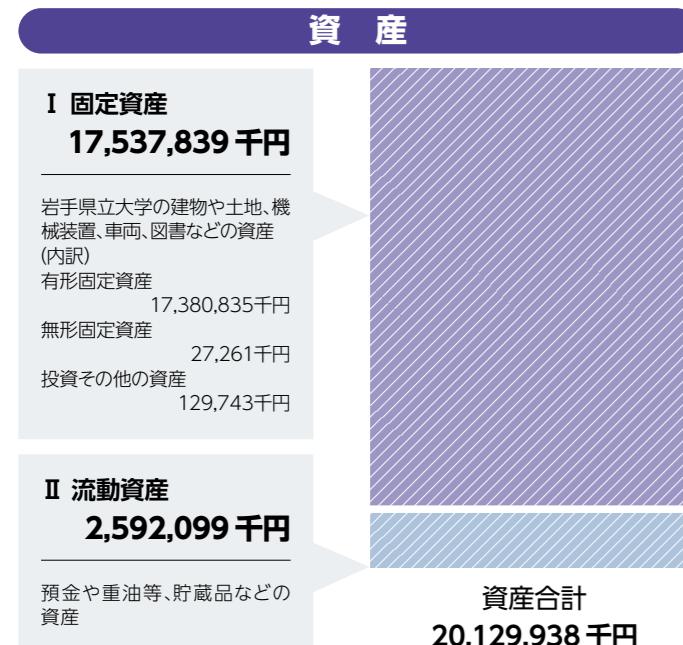


多様な資金の獲得と効果的な大学運営

令和6年度は、前年度に引き続き、競争的資金や受託研究費、共同研究費の獲得に努めたほか、積極的に国の補助金や受託事業を活用し、地域における産学共同研究事業や学生の就職支援事業、次世代の人材育成業務などに取り組みました。このほか、事業内容の見直しや重点

化に努め、事務事業の効率化を図りながらコスト削減に取り組む一方で、今年度も目的積立金を財源とした「学長特別枠」を設け、教育の質の向上に資する事業に対し計画的に予算を配分し、教育・研究活動の充実・強化に努めました。

岩手県立大学の財務状況 (令和7年3月31日現在)



(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和6年度の収支状況(収入)

岩手県立大学における収入の58.3%は、岩手県からの運営費交付金です。授業料、入学金及び検定料、産学連携等研究収益等の自主財源の割合は41.7%です。

項目	金額(千円)	割合(%)	備考
運営費交付金	3,690,105	58.3	県から運営費として交付されたもの
授業料	1,217,440	19.2	大学独自の収入(自主財源)
入学金及び検定料	211,730	3.4	
産学連携等研究収益	133,993	2.1	企業や団体から委託された研究及び事業における収入
補助金等	304,138	4.8	施設等整備事業費補助金、寄附金等
寄附金	24,675	0.4	
その他	94,896	1.5	
目的積立金取崩	652,636	10.3	
合計 (A)	6,329,618		

(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和6年度収支(A-B)

239,960千円

■ 学生及び教員一人あたりにかかる経費[令和6年度]

令和6年度の大学教育及び研究等における経費は、岩手県立大学全体で損益経常費用合計60億8,966万円でした。教育経費と教育研究支援経費、教員人件費の一部

を含めた、学生一人あたりの教育経費は約100万円です。また、教員一人あたりの研究経費は約259万円です。

大学教育及び研究等にかかる経費

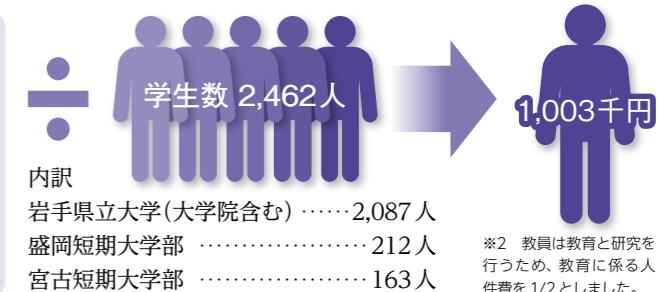
総計
4,307,826千円

教育経費	1,143,685千円
研究経費	512,848千円
教育研究支援経費	161,125千円
教員人件費	2,490,168千円

学生一人あたりの教育経費

教育経費総計
2,469,332千円

内訳
教育経費 1,143,685千円
教育研究支援経費 × 1/2 80,563千円
教員人件費 × 1/2^{※2} 1,245,084千円



教員一人あたりの研究経費

研究経費総計
593,411千円

内訳
研究経費 512,848千円
教育研究支援経費 × 1/2 80,563千円



(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和6年度の収支状況(支出)

支出のうち、教育、研究等に係る経費はおよそ29.8%です。

項目	金額(千円)	割合(%)	備考
教育経費	1,143,685	18.8	
研究経費	512,848	8.4	大学教育及び研究等に係る経費
教育研究支援経費	161,125	2.6	
産学連携等研究経費	123,297	2.0	企業や団体から委託された研究及び事業に係る経費
役員人件費	22,377	0.4	役員、教員、非常勤講師及び事務局等の職員人件費
教員人件費	2,490,168	40.9	
職員人件費	986,921	16.2	
一般管理費等	649,233	10.7	光熱費、修繕費、消耗品費等
合計 (B)	6,089,658		

column

岩手県立大学未来創造基金

本学では、開学20周年を機に、大学の運営を安定化させ、教育研究活動等を更に充実させていくための財源として、平成28年4月に「岩手県立大学未来創造基金」を設置しました。

本基金は趣旨に賛同していただける個人、法人、団体等の皆様からの寄附金(1口1,000円)及びその運用益をもって構成するものであり、次の事業に充てることとしています。

- 教育及び研究活動の充実を図るために必要な事業
- 学生及び外国人留学生に対する支援事業
- 産学官連携及び地域・社会貢献に係る活動を推進するために必要な事業
- 被災地の復興を支援するために必要な事業
- 施設整備及び大学運営等の充実を図るために必要な事業

これまでにいただいた寄附金は、学内のアスレチック設備の充実や構内の外灯設置などに活用しています。

今後も、地域に根ざす大学として、本基金を活用しながらわての未来づくりに貢献する人材育成と地域に貢献する取組をさらに広げていきたいと考えておりますので、皆様の御理解と御支援をよろしくお願いします。



トレーニング室に設置されたトレッドミル

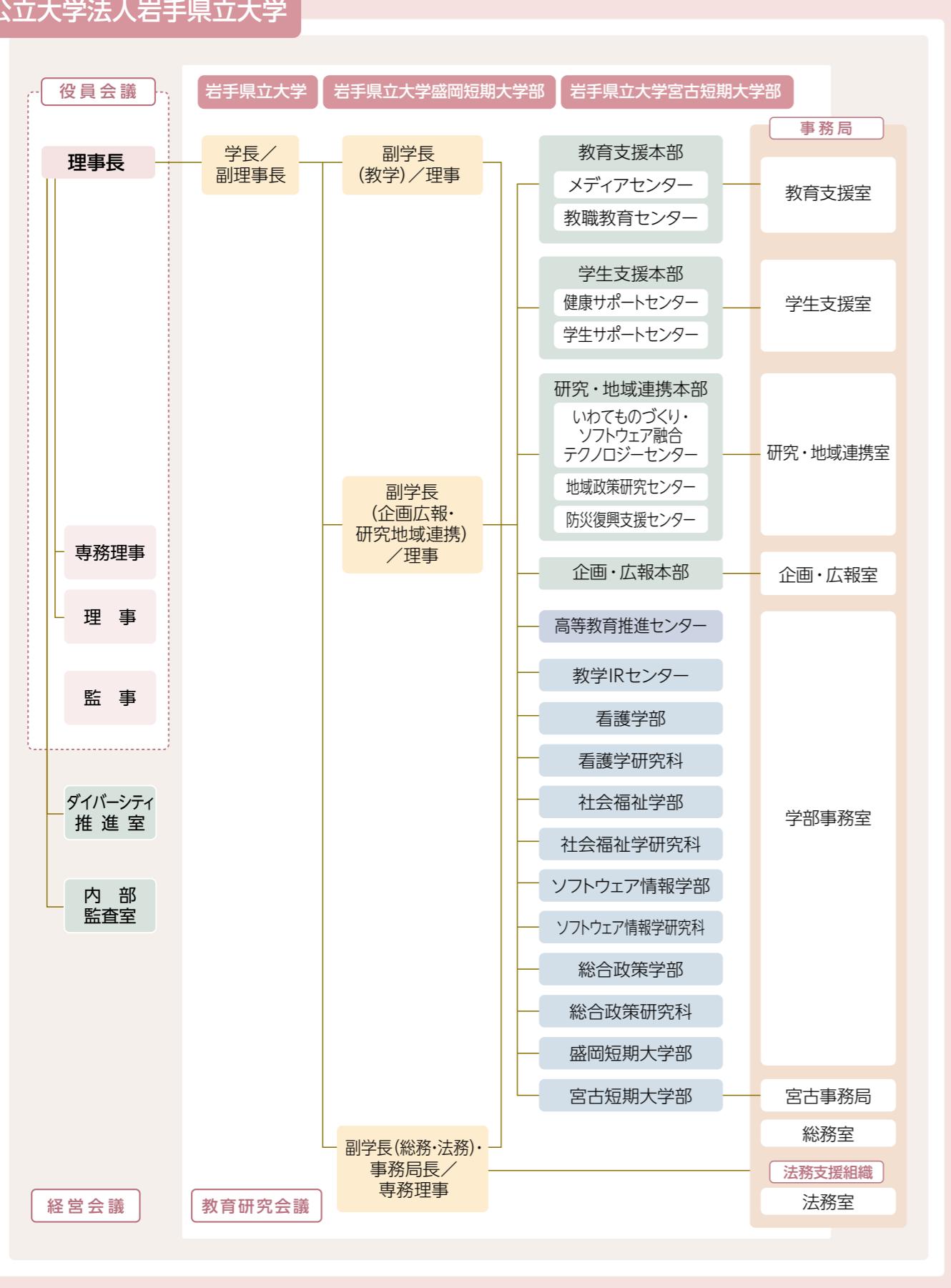


構内に設置された外灯

組織図・役職員

Iwate Prefectural University

公立大学法人岩手県立大学



役員

公立大学法人岩手県立大学

	岩手県立大学	岩手県立大学 盛岡短期大学部	岩手県立大学 宮古短期大学部
理事長	石堂 淳		
副理事長	鈴木 厚人	学長 鈴木 厚人	
専務理事	鈴木 俊昭	副学長(企画広報・研究地域連携)／ 教育支援本部長／教学IRセンター長 高橋 聰	
理事	亀田 昌志	副学長(企画広報・研究地域連携)／ 研究・地域連携本部長 亀田 昌志	
理事	高橋 聰	副学長(総務・法務)／事務局長 鈴木 俊昭	
理事	福島 裕子	学生支援本部長 高嶋 裕一	
理事(非常勤)	藤村 文昭	企画・広報本部長 猪股 俊光	
理事(非常勤)	小原 忍	高等教育推進センター長 高橋 英也	
監事(非常勤)	三河 春彦		
監事(非常勤)	細川 亮		
	看護学部長 看護学研究科長 工藤 朋子	盛岡短期大学部長 川崎 雅志	宮古短期大学部長 田中 宣廣
	社会福祉学部長 社会福祉学研究科長 中谷 敬明		
	ソフトウェア情報学部長 ソフトウェア情報学研究科長 橋本 浩二		
	総合政策学部長 総合政策研究科長 Tee Kian Heng		



教職員数

	岩手県立大学	岩手県立大学 盛岡短期大学部	岩手県立大学 宮古短期大学部
教 授	59	8	2
准 教 授	73	7	9
講 師	35	7	5
助 教	16	1	0
助 手	10	1	0
研究員等	—	—	—
教員計	193	24	16
職 員		173	
教職員計			406

※令和7年5月1日現在



滝沢キャンパス

看護学部・社会福祉学部・ソフトウェア情報学部・
総合政策学部・盛岡短期大学部・高等教育推進センター・
看護学研究科・社会福祉学研究科・ソフトウェア情報学研究科・
総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52
TEL 019-694-2000 FAX 019-694-2001
(施設概要) 敷地面積（実測）35.1ha / 建物面積（延べ床）81,304 m²

地域連携棟

(いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター、地域政策研究センター、防災復興支援センター)
〒020-0611 岩手県滝沢市巣子 152-89
TEL 019-694-3330 FAX 019-694-3331



宮古キャンパス

宮古短期大学部

〒027-0039 岩手県宮古市河南 1-5-1
TEL 0193-64-2230 FAX 0193-64-2234
(施設概要) 敷地面積（実測）5.6ha
建物面積（延べ床）8,664 m²



アイーナキャンパス

サテライトキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階
TEL 019-606-1770 FAX 019-606-1771
(施設概要) 学習室、セミナー室等12室



岩手県立大学 アクセスマップ

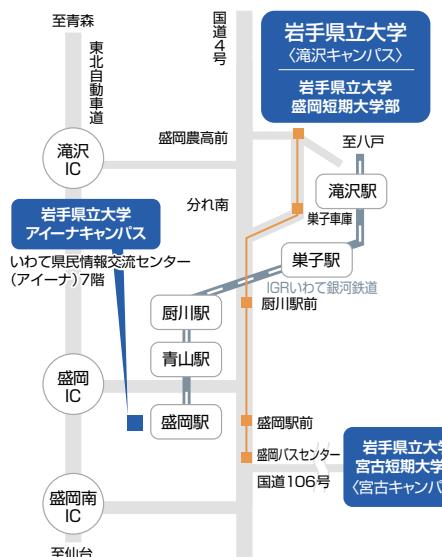
滝沢キャンパスまでの経路

■バスで
岩手県交通「盛岡駅東口バス停②」から約40分、「県立大学前」バス停下車すぐ。

■鉄道で
IGRいわて銀河鉄道「盛岡駅」から15分、「滝沢駅」下車、徒歩約15分。

■車で
東北自動車道「滝沢IC」から約5分（国道4号を青森方面へ出て、2つめの交差点を右折してすぐ）。

■アイーナキャンパスまでの経路
盛岡駅西口から徒歩3分



宮古キャンパスまでの経路

盛岡から106急行バスまたはJR山田線で宮古駅まで約2時間。宮古駅バスのりば2番線から「BO2八木沢循環」乗車、「宮古短大前」バス停下車すぐ。または宮古駅から三陸鉄道リアス線で「八木沢・宮古短大駅」下車徒歩15分。



地域に未来に多様なアーチを
岩手県立大学
Iwate Prefectural University

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52

Tel 019-694-2000 Fax 019-694-2001

<https://www.iwate-pu.ac.jp>



詳しくはHPをご覧ください

岩手県立大学

検索